

(短報)

唐津湾相賀地先での刺網試験操業により漁獲された魚種組成

荒巻 裕\*・古賀秀昭\*

Variety of Fishery Products Caught by Gill Net at Ouka,  
Inner Part of Karatsu Bay

Hiroshi ARAMAKI\* and Hideaki KOGA\*

キーワード：刺網, 試験操業

佐賀県唐津湾西部に位置する相賀崎地先は、小規模な岩礁が散在しているものの、全体としてはアマモ場の発達した砂泥質の海域となっており、稚仔魚の生育場として重要な海域である可能性が高い(図1)。この海域では、漁船の操業や遊漁がほとんどみられず、生息・来遊する魚種の実態はほとんど把握されていない。そこで今回は、年間を通した刺網試験操業で漁獲された魚種について、魚種の変化についてとりまとめと考察を行った。

試験操業は2003年3月に2回、以降は約2ヶ月に1回の頻度で計7回実施した(表1)。平均水深3m~5mの等深線を垂直に横切る形で、目合い6節と9節網を並行に(6節網:網長100m, 9節網:網長50m, 網の間隔約20m)設置した。なお、調査では毎回、設置を16時頃に、揚網を翌朝の9時頃に行った。漁獲物のうち、貝

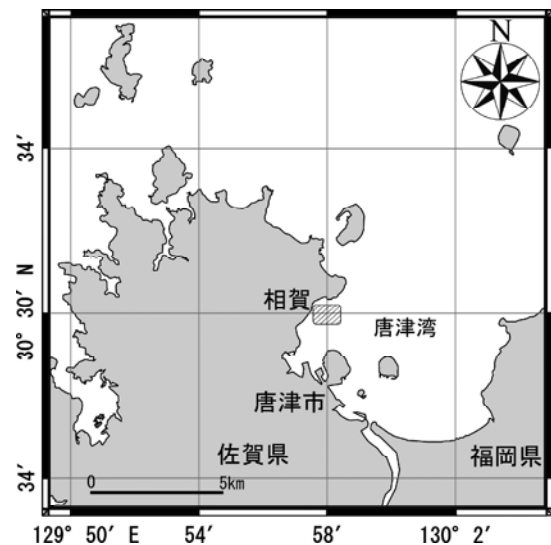


図1 刺網試験操業位置図  
▨: 試験操業域。

表1 刺網試験操業の概要

実施日	環境条件 (設置日/回収日)				風向	最大波高 (m)
	水温 (°C) 0 m	水温 (°C) B-1 m	塩分 (psu) 0 m	塩分 (psu) B-1 m		
3/4~3/5	11.7/10.4	11.6/11.3	34.41/32.33	34.40/34.48	NNE3/N3	1.0/1.0
3/27~3/28	12.6/12.2	12.0/12.1			NW2/NE1	0.5/0.5
5/27~5/28	19.0/20.1	19.3/18.7	/33.18	/34.25	NE4/NE2	1.5/1.0
7/30~7/31	24.3/23.7	24.1/23.7			NW5/NW3	1.5/1.0
9/29~9/30	24.2/23.0	24.0/23.4			NW5/N3	1.5/1.0
12/4~12/5	17.2/16.3	17.1/15.9	33.84/33.66	33.86/33.66	NE3/-	1.5/0.2
2/2~2/3	/12.2	/11.9	/34.73	/34.75	NW4/NW2	1.0/0.5

\* 現 佐賀県有明水産振興センター

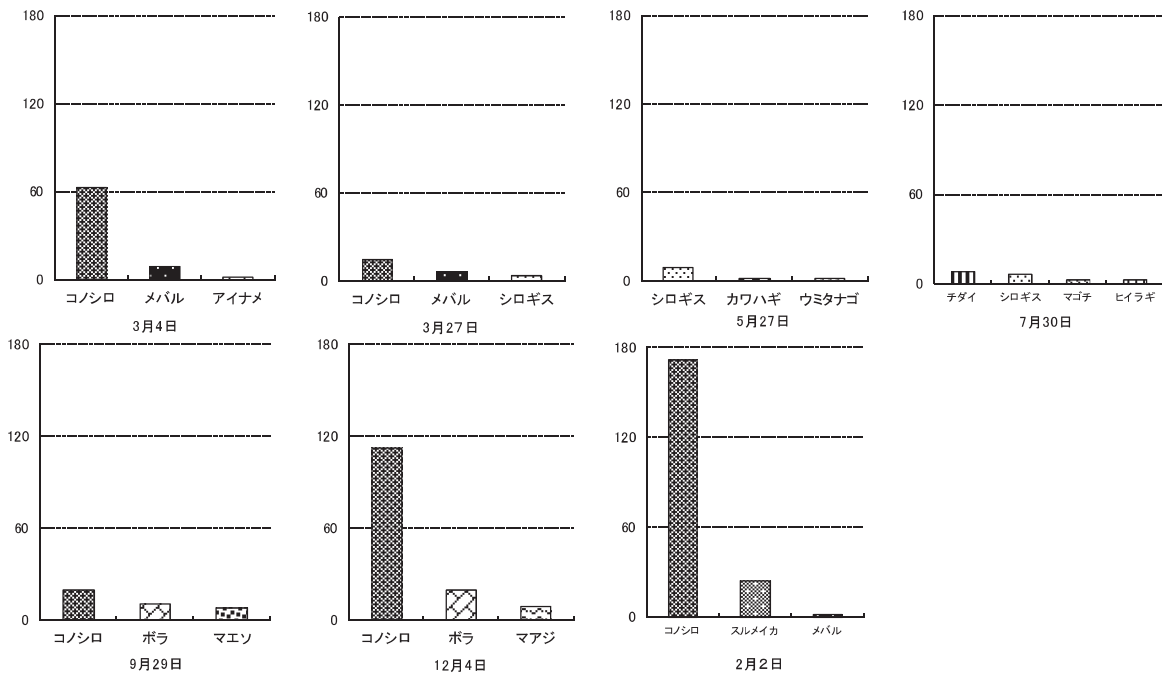


図2 漁獲された上位3種の推移

類を除いた全個体を回収して実験室に持ち帰り、種の同定、計数を行い、全長と体重を測定した。

7回の試験操業の結果、6節、9節網合わせて38種類が漁獲され、全体的には砂泥域に生息する魚種がほとんどであった（付表）。

年間を通じて最も漁獲数が多かったのはコノシロの382尾であり、全漁獲数の約7割を占めていた（図2）。次いでボラ33尾、シロギス25尾、スルメイカ24尾、メバル17尾、マエソ13尾、マアジ、チダイ各12尾の順であった。

各魚種の出現時期について推察すると、コノシロは、5、7月を除く全ての調査で漁獲されており、夏季を除く時期にこの海域に生息していると推測された。ボラ、マアジは晩夏～冬季（9～12月）の水温下降期に、シロギス、マエソ、チダイは晩春～晩夏（5月～9月）の高水温期を中心に、メバルは冬季（2～3月）の低水温期を中心に漁獲されていた。

また、生態について推察すると、コノシロはサイズがほぼ全数が全長約25cm前後と、年間を通じて一定であることから、いずれも4歳魚以上である<sup>1, 2)</sup>と推測された。シロギスについては、体長の大きさや産卵期・水深<sup>1, 3)</sup>との関係から当海域付近が産卵場となっ

ていることが推測された。チダイについては、比較的小型のものが漁獲されていたことから、当海域付近が幼魚の成育場<sup>1)</sup>となっていることが推察された。なお、2月2日に多獲されたスルメイカは、漁業者への聞き取りの結果、海況等の要因で特異的に漁獲されたもので、毎年来遊してくるものではないとのことであった。

以上のように、今回の試験においては多種多様な魚種が漁獲され、中にはある程度の季節変動を示すものがあつた。これらの魚種にとって相賀崎地先は、産卵、成育あるいは小、大規模回遊経路の一部となっているものと考えられ、水産生物にとって極めて重要な場所の一つであると推測された。

## 文 献

- 1) 阿部宗明・本間昭郎（1977）：現代おさかな事典 漁場から食卓まで。
- 2) ㈱日本水産資源保護協会（1977）：コノシロ. 昭和51年度関西国際空港漁業環境影響調査 漁業生物班資料1, 71-8.
- 3) 山口忠則・金丸彦一朗・上田 拓（2012）：唐津湾におけるシロギスの漁獲実態と資源傾向, 佐玄水振セ研報, 5, 23-28.

付表 刺網試験操業漁獲物の概要

	3月4日			3月27日			5月27日			7月30日			9月29日			12月4日			2月2日			漁獲数計
	n	TL	BW	n	TL	BW	n	TL	BW	n	TL	BW	n	TL	BW	n	TL	BW	n	TL	BW	
コノシロ	63	255~265	130~146	15	249~274	157~187																382
ボラ	1	435	513																			33
シロギス	3	-	-	9	186~271	34~116	6	198~257	56~-													25
スルメイカ	9	113~192	22~99	6	72~200	9~145																24
メハル				1	204	208	2	193~468	48~540	8	270~494	116~725	2	438~444	529~535							17
マエソ																						13
マアジ																						12
チダイ							8	94~108	14~23	4	122~125	9~30										12
カワハギ	1	144	55	2	132~143	24~43	2	150~168	90~99	1	119	33										6
マゴチ				3	128~130	17~-	3	184~460	46~633													6
スズキ	1	350	372	2	338~362	305~329	1	396	521													5
ハオコゼ				2	155~170	24~41	2	173~190	47~61													4
ウミタナゴ																						4
マダイ																						3
アイナメ	2	257~332	226~445				1	96	16	2	90~120	12~32										3
ヒイラギ				1	135	-																3
カイワリ				3	125~127	30~32																3
コロダイ																						2
ゴンズイ				1	210	-																2
ハダイ				2	250~255	278~279																2
イイダコ	1	100	53																			1
ホタテウミハビ				1	-	-																1
カタクチイワシ																						1
キユウセン				1	229	104																1
クルマエビ	1	200	58																			1
クロダイ	1	393	109																			1
サワラ																						1
シマイサキ																						1
シヨウサイフダ				1	187	169																1
セトウシノシタ																						1
テナガダコ				1	150	36																1
トビユイ				1	-	-																1
ヒラメ				1	276	122																1
マコガレイ	1	163	29																			1
マサバ																						1
マダコ				1	388	264																1
メジナ				1	133	22																1
ヨシエビ				1	133	22																1
計	79			30			17			72		149	201									578

\* スルメイカは、ML  
-は、食害により測定不能または欠測のものを示す。